

ことばのこぼこ



### ことばのこぼこ

和田 誠 / さく・え 瑞雲舎

「くものむこうになにがある あるびすのゆきあるのかな かなだのもりかはらっぱか ぱかぱかうまもかけていく」楽しいことばあそびが 18種類、しょうかいされています。どんなあそびかわかるかな？

ペテフレット荘のブルック



### ペテフレット荘のブルック 上下

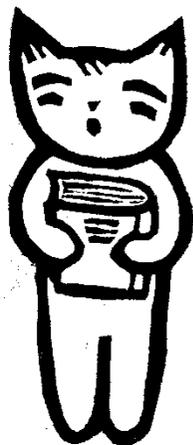
アニー・シュミット / 作 フィーフ・ヴェステンドルフ / 絵 岩波書店

塔の部屋にひとりで住んでいる男の子ブルック。楽しい住人やかわいい動物たちと、キジバト森を守ったり、ぜつめつしたはずの鳥を助けたりと大かつやく。オランダで読みつがれてきた物語です。

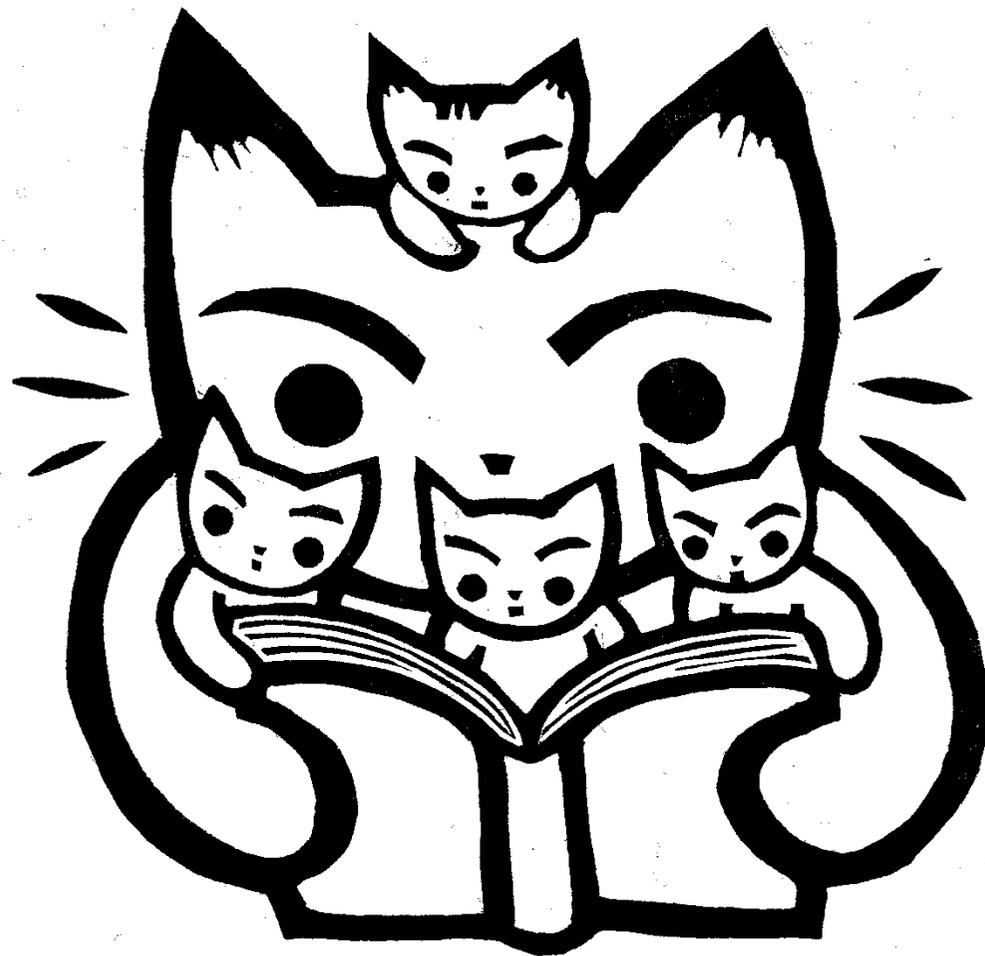
## としょかん 図書館からのお知らせ

「よんでみませんか」・「課題図書」は、読みたひと

「リクエストの本が用意できました」という連絡がきたら、早目に借りにきてください。



# よんでみませんか



3・4ねんせいのみなさんにすすめる本  
2021年  
かしわしいつとしょかん

柏市立図書館

電話 04-7164-5346  
<http://toshokan.city.kashiwa.lg.jp/>

表紙と裏表紙 大野 隆司・版画



## 虫ガール ほんとうにあったおはなし

ソフィア・スペンサー(虫ガール)/文 ケラスコエット/絵 岩崎書店

私<sup>わたし</sup>がはじめて虫と仲良<sup>なかよ</sup>くなったのは、2才半の頃<sup>ころ</sup>。でも小学生になったら、変な子<sup>へんなこ</sup>だっていじめられたの<sup>の</sup>。ママがインターネットで世界中の昆虫好き<sup>こんちゅうずき</sup>からの返<sup>へん</sup>事を<sup>じ</sup>くれた。私は昆虫学<sup>こんちゅうがくしや</sup>者<sup>しや</sup>になりたい!



## わたしたちのたねまき

ガルブレイス/作 ハルパリン/絵 のら書店

植物はひとつの小さなたねから芽<sup>め</sup>を出<sup>い</sup>します。たねはどこから運<sup>はこ</sup>ばれて来<sup>く</sup>るのでしょうか。もしかしたら私<sup>わたし</sup>たちより世界中を旅<sup>たび</sup>しているの<sup>の</sup>かもしれませんね。



## 講談えほん 大岡越前-しばられ地蔵

石崎 洋司/文 北村 裕花/絵 講談社

大岡越前<sup>おおおかえちぜん</sup>は、かしこく思いやりのあるお裁<sup>さば</sup>きをする名<sup>な</sup>さいばんかん<sup>かん</sup>です。どろぼうの疑<sup>うたが</sup>いをかけられ困<sup>こま</sup>り果<sup>こ</sup>てた弥五郎<sup>やごろう</sup>に、どんなお裁<sup>さば</sup>きをみせてくれるのでしょうか。有名な講談<sup>こうだん</sup>をもとにした絵本<sup>えほん</sup>です。



## 子どもに語るグリムの昔話

佐々 梨代子・野村 滋/訳 こぐま社

この昔話<sup>せいかた</sup>はグリム兄弟<sup>せいかた</sup>が19世紀<sup>せいき</sup>の初<sup>はじ</sup>めに、人<sup>ひと</sup>から人<sup>ひと</sup>へと語り伝<sup>つた</sup>えられたお話<sup>わらわ</sup>を集<sup>あ</sup>めて、書<sup>か</sup>き記<sup>し</sup>したものです。このシリーズ<sup>しりーず</sup>は一巻<sup>いっまい</sup>から六巻<sup>むくまい</sup>までありますが、一つ一つは短<sup>みじ</sup>いお話<sup>わらわ</sup>です。好きなお話<sup>わらわ</sup>はなにかな。



## ともだちは海のおい

工藤 直子/作 長 新太/絵 理論社

星<sup>ほし</sup>がきれいな夜<sup>よ</sup>、静<sup>しず</sup>かな海<sup>うみ</sup>で、イルカ<sup>イルカ</sup>とくじら<sup>くじら</sup>は出<sup>い</sup>会<sup>あ</sup>います。おおきさもせい<sup>せい</sup>かくも、すきなこ<sup>すきなこ</sup>ともちがうけど、ふたりはなかよ<sup>なかよ</sup>くなりました。コドク<sup>こどく</sup>もいいが「いっしょ」もわるくないな。ふたりはそうおもいました。



## わすれられないおくりもの

スーザン・バーレイ/さく・え 小川 仁央/やく 評論社

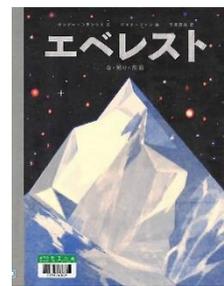
もの知<sup>し</sup>り<sup>り</sup>で賢<sup>かしこ</sup>いアナグマ<sup>アナグマ</sup>は、みんなからとて<sup>と</sup>も頼<sup>たよ</sup>りにされていましたが、冬<sup>ふゆ</sup>のはじめに死<sup>し</sup>んでしま<sup>ま</sup>います。森<sup>もり</sup>の仲間<sup>なかま</sup>たちは悲<sup>かな</sup>しみに暮<sup>く</sup>れますが、春<sup>はる</sup>が来<sup>く</sup>るとみんな<sup>みんな</sup>でアナグマ<sup>アナグマ</sup>との大<sup>お</sup>切<sup>き</sup>な思<sup>おも</sup>い出<sup>で</sup>を語<sup>かた</sup>り合<sup>あ</sup>います。



## したきりすずめ

石井 桃子/再話 赤羽 末吉/画 福音館書店

「すずめや すずめ すずめのおやどは どこじゃいな。」はらを たてた ばあさは、すずめのした<sup>した</sup>をき<sup>き</sup>てしま<sup>ま</sup>いました。かわいそ<sup>かわいそ</sup>うな すずめ<sup>すずめ</sup>を さ<sup>さ</sup>がしに じいさは 山<sup>やま</sup>へ はい<sup>はい</sup>っていき<sup>い</sup>ます。



## エベレスト 命・祈り・挑戦

サングマ・フランシス/文 リスク・フェン/絵 徳間書店

エベレスト<sup>エベレスト</sup>の誕生<sup>たんじゆう</sup>から、そこ<sup>そこ</sup>に生<sup>せい</sup>息<sup>そく</sup>する植物<sup>せいぶつ</sup>や生き物<sup>いきぶつ</sup>たち、登<sup>とう</sup>頂<sup>てい</sup>を夢<sup>ゆめ</sup>見る登<sup>と</sup>山<sup>さん</sup>家<sup>か</sup>たち<sup>たち</sup>の挑<sup>てん</sup>戦<sup>せん</sup>していく様<sup>よう</sup>子<sup>す</sup>など、世界<sup>せかい</sup>一<sup>いち</sup>高<sup>たか</sup>い山<sup>さん</sup>につい<sup>つ</sup>てのおはなし<sup>はなし</sup>です。